

# ミクロネシア連邦「五輪を通しての『平和への思い』を継承」

2019年7月～2022年3月



ミクロネシア連邦首都ポンペイにある高校での交流

## 背景/課題

島根県隠岐の島の海士(あま)町出身の故宮田隆さんは、第二次世界大戦時の「ドドーン」という爆撃音が「トーン」という太鼓の音に変わった平和な時代の表現として「東京五輪音頭」を作詞した。その「平和への想い」を継承するため、島前3町村(海士町・西ノ島町・知夫村)に島後1町(隠岐の島町)も加わってミクロネシア連邦の東京2020大会ホストタウンとなり、同国との交流を進めている。

## 目的

- 両国の交流と学び合いを通して、持続可能な社会づくりを目指す。
- スポーツによる協働事業で島前3町村の結びつきを強化する。
- 国内外の自治体との連携によるレガシーを創出する。

## 活動内容

- ジョン・フリッツ駐日ミクロネシア連邦大使の島前3町村訪問と交流(2019年7月)
- 大江和彦海士町長ほか5名がミクロネシア連邦を訪問し交流(2019年8月)
- 安倍総理、パニユエロ・ミクロネシア連邦大統領と、大江海士町長の面談(2019年11月)
- 海士町が中心となって作成した教材を使って、群馬県と福岡県での授業実践(2019年12月)

## 成果

- 自然や文化を維持しながらゆっくり発展する持続可能な社会づくりモデルとなる相互交流プログラムを実施
- 元オリンピックの森岡隆三氏(シドニー大会、サッカー)と石川直宏氏(アテネ大会、サッカー)との交流事業を島前3町村で共同開催することで、各地域での思い出づくりと島前3町村の結びつきの強化が図られた。